

# 不撓不屈

ふとうふくつ

次世代の柱に

東亜工機（佐賀県鹿島市）の主力製品は船舶向けディーゼルエンジン部品のシリンダーライナーで高いシェアを持つ。そのため経営は造船業界の景気に大きな影響を受ける。そんな状況を社長の光武渉は課題とし「安定している企業は5本程度の収益の柱がある。次の製品を探すが僕の仕事」と収益構造の多角化

## 東亜工機

④

### 収益構造を多角化

を狙う。

同社は2010年ごろから収益構造が少しずつ変化している。11年度は売り上げの中で船舶向けシリンダーライナー以外の割合は5%程度だった。だが16年度は16%ほどに上昇した。その中心は発電機向けのシリンダーライナー。世界的メーカーからの受注もあるなど成長をみせ、光武の狙う次世代の柱の一つに育ちつつある。

### 製造技術生かす

また発電機向け以外の

製品開発も進行中。シリンダーライナーで培った製造技術を生かしており、工場内の空きスペースなどを活用することで大規模な設備投資の必要なく取り組んでいる。材質や鋳造加工技術で他社

## 造船向け環境技術に照準



次世代製品の開発に積極的に取り組む光武社長

### 推進力を発揮

「環境」だ。二酸化炭素などの排出量が少なく環境負荷の小さいエンジン

との差別化を図る。その内容について光武は「まだ秘密」と笑顔でかわすが手応えはつかんでいるようだ。しかし次世代の事業の

柱が育つまでの収益基盤が造船業界にあることに変わりない。光武は「目の前は厳しい状況でも長期的には伸びていくだろう」と業界を展望す

最も好きな作家は司馬遼太郎。「坂の上の雲は4回読んだ。東大阪市にある司馬遼太郎記念館の会員になっている」と笑

（敬称略）

（この項おわり。西部増重直樹が担当しました）